

# 田原川水系河川整備基本方針

平成30年3月

沖 縄 県

## 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域及び河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川整備の基本となるべき事項	5
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	5
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	5
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	6
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項	6
(参考図) 田原川水系図	7

# 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

## (1) 流域及び河川の概要

田原川は、与那国島東部に位置し、その源を与那国島最高峰宇良部岳（標高 231 m）の山麓に発し、途中右支川を合わせ、祖納集落の南側を流れ、東シナ海に注ぐ幹線流路延長 1.29km、流域面積 7.1km<sup>2</sup>の二級河川である。

気候は、亜熱帯海洋性気候に属し、降雨は梅雨期と台風期に多く、年平均降水量は約 2,400mm、年平均気温は約 24℃である。

田原川流域は、与那国町東部の祖納集落の南側に位置し、畑地・水田が約 65%、森林が約 30%を占める流域である。上流域は、源流域は森林であるが、段丘には畑地・水田が広がっている。中流域は、左岸側に田原川湿地があり、右岸側には畑地・水田が広がり、下流域には住宅地が広がっている。

田原川沿川および宇良部岳、インビ岳周辺は、国指定与那国鳥獣保護区に指定され、さらに宇良部岳山頂周辺は、国指定与那国特別保護地区、県指定自然環境保全地域になっており、日本最大の蛾ヨナグニサンは、県の天然記念物に指定されている。

田原川上流部では、田原水園が整備され、中流部の左岸にある田原川湿地は、環境省の「重要湿地」に選定されており、良好な環境を形成している。

流域の地形は、南側に与那国島最高峰の宇良部岳、インビ岳の丘陵地があり、その周りに段丘が広がっている。二級河川指定区間の沿川周辺は、全域が谷底低地であり、左岸側には田原川湿地が広がっている。

流域の地質は、上流の山地には八重山層群と段丘堆積物が分布しており、二級河川指定区間の沿川は沖積層、左岸側の切り立った段丘は八重山層群となっており、両岸に広がる丘陵地は琉球石灰岩である。下流の河口部には、段丘石灰岩層が分布している。

源流から右支川合流地点に至る上流部のうち、源流から田原水園までは、左右岸が山付きの谷地形となっており、二級河川指定区間最上流部には取水堰が設置されている。田原水園から右支川合流地点までは、右岸側には水田が広がり、河岸は石張護岸またはコンクリート張護岸で整備されている。水際には、カラムシ群落、ガジュマル-ハマイヌビワ群落、ギンネム群落、オオハマボウ群落等の植生が生育している。水域には、ユゴイ、オオグチ

ユゴイ、ナンヨウボウズハゼ等の魚類が生息し、重要な種であるオオウナギが確認されている。貝類は重要な種であるヨシカワニナ、イボアヤカワニナ等が生息している。

右支川合流地点からながやま橋までの中流部は、右岸側には畑地・水田が広がり、右岸の河岸部は石張護岸で整備され、左岸側は田原川湿地である。水際には、イボタクサギ群落、パラグラス群落の植生が生育している。水域には、外来生物であるカダヤシ、ナイルティラピア等の魚類が生息し、重要な種であるオオウナギやコモチサヨリが確認されている。昆虫類では、重要な種であるアオナガイトトンボ等が生息し、貝類では、重要な種であるヌノメカワニナやイボアヤカワニナ等が生息している。田原川湿地には、ヤエヤマヒルギ群落やシマシラキ群落等が広がり、水辺には、甲殻類のミナミオカガニや重要な種であるオオアシハラガニモドキが生息している。湿性植物の繁茂する一帯は、アオナガイトトンボの成虫の産卵・生息場となっている。水域には、外来生物であるカダヤシ、ナイルティラピア等の魚類が生息し、重要な種であるホホグロハゼやオオウナギが確認されている。

ながやま橋から河口までの下流部は、右岸側には住宅地が広がり、左岸側にはアダン群落が分布している。十山橋<sup>とやま</sup>から河口までの区間の左岸は山付きの自然河岸となっているが、それ以外の区間は石積護岸またはコンクリート護岸で整備されている。河道内に設置されている布団籠には、オニクグ群落の植生が生育しており、水域には、外来生物であるカダヤシ、ナイルティラピア等の魚類が生息し、重要な種であるホシマダラハゼが確認されている。自然河岸には、甲殻類の重要な種であるオカヤドカリ類が多く生息し、貝類は、重要な種であるヌノメカワニナやイボアヤカワニナが生息している。

田原川の河口部には、防潮水門が設置されており、水門より下流の左岸側には海岸護岸、右岸側には海岸突堤がある。

田原川において、治水事業は実施されていない。田原川に関連する事業としては、港湾事業により河口に防潮水門が設置されている。

また、田原川の護岸は土地改良事業等で整備されており、中流部の主流路は湿地内にあったが、昭和 48 年から昭和 57 年にかけて農業用水路が整備されたことにより、現在の田原川湿地の右岸側に変更されている。

このような中、台風や豪雨による浸水被害が度々発生しており、平成 20 年 9 月の台風 13 号では床上浸水 30 戸、床下浸水 23 戸の浸水被害が発生している。

河川水の利用については、最上流の取水堰（田原川水源地）で取水され、水道用水、工業用水、畜産用水、農業用水として利用されている。

河川の水質については、水質汚濁に係る環境基準は設定されていない。平成 27 年の水質調査では、生活環境項目の pH、BOD、SS、DO の 4 項目については、水質環境基準の AA 類型（pH：6.5 以上 8.5 以下、BOD：1mg/L 以下、SS：25mg/L 以下、DO：7.5mg/L 以上）に相当している一方、大腸菌群数については、上流部では水質環境基準の B 類型（5,000MPN/100mL 以下）に相当し、中下流部では C 類型（5,000MPN/100mL 以上）以下に相当する。田原川湿地では塩水の湧出が確認されている。

河川の利用については、上流部では田原水園が親水整備されており、石碑やベンチといった休憩施設が設けられ、地域住民の憩いの場となっている。

また、河川沿いは散策等に利用され、地域住民に親しまれている。

## （2）河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

田原川水系の課題としては、流下能力の確保、海水と淡水が交わりあい多様な生物の生育環境を有する田原川湿地の持つ良好な河川環境の保全等があげられる。

これらを踏まえ、田原川の河川整備においては、治水安全度の向上を図るとともに、田原川湿地に育まれた豊かな河川環境の保全と適正な管理を進めていくものとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、「想定氾濫区域内の資産規模」、「過去の災害実績等」を考慮し、30 年に 1 回程度の降雨で発生する洪水を安全に流下させることを目的として、河道の整備を行う。

これらに加えて、計画規模を上回る洪水に対しても、できるだけ被害を軽減するため、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備等、総合的な洪水被害軽減対策を関係機関や地域住民と連携して推進する。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、地域住民及び関係機関等との協力のもと、生物の生息・生育環境に配慮するとともに、水質の維持に取り組み、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める。

河川環境の整備と保全に関しては、河川及び流域の特性を十分踏まえ、自然環境や人と川との係わりに配慮した整備と保全に努める。

上流部では、田原水園が親水整備されており、これらの環境が将来的に保全されるよう努める。

中下流部では、治水機能を確保しつつ、沿川の田園風景との調和や河川が本来有している動植物の生息・生育環境の保全を目指し、河岸の緑化、みお筋や多様な水際の創出に努める。特に、自然豊かな田原川湿地は、水の流れを制御し、自然の貯水池として機能している。そのため、湿地の自然生態系が有する防災・減災機能を活用・発揮できるよう、健全な状態の保全に努めるものとする。

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び在来動植物の生息・生育・繁殖環境等の河川環境の保全や外来生物拡散防止等の観点から適切に対策を行うものとする。

また、河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、防災教育、河川利用に関する安全教育、環境教育等の充実を図るとともに住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を積極的に推進・支援し「みんなで協力しあう川づくり」を目指す。

河川景観に関しては、田原川湿地を中心とした貴重で豊かな自然景観の保全を基本とし、どうなんちま（与那国島）らしい歴史・文化やまちづくりとの調和に配慮し、人々の生活と結びつき親しみを感じられる河川景観の形成を図る。

## 2. 河川整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

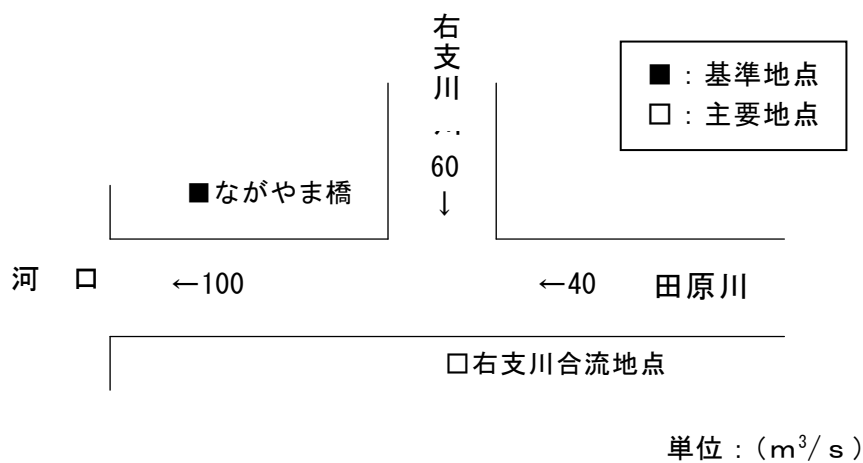
田原川の基本高水のピーク流量は、30年に1回程度発生する洪水について検討した結果、基準地点であるながやま橋において $100\text{m}^3/\text{s}$ とし、これを河道へ配分する。

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	洪水調節施設等による調節流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	河道への配分流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )
田原川	ながやま橋	100	0	100

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

田原川における計画高水流量は、基準地点であるながやま橋において $100\text{m}^3/\text{s}$ とする。



田原川 計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

田原川の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位ならびに川幅一覧表

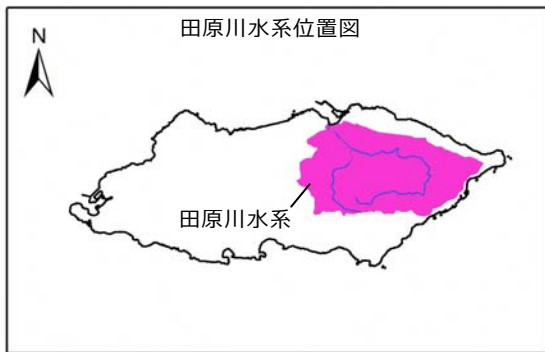
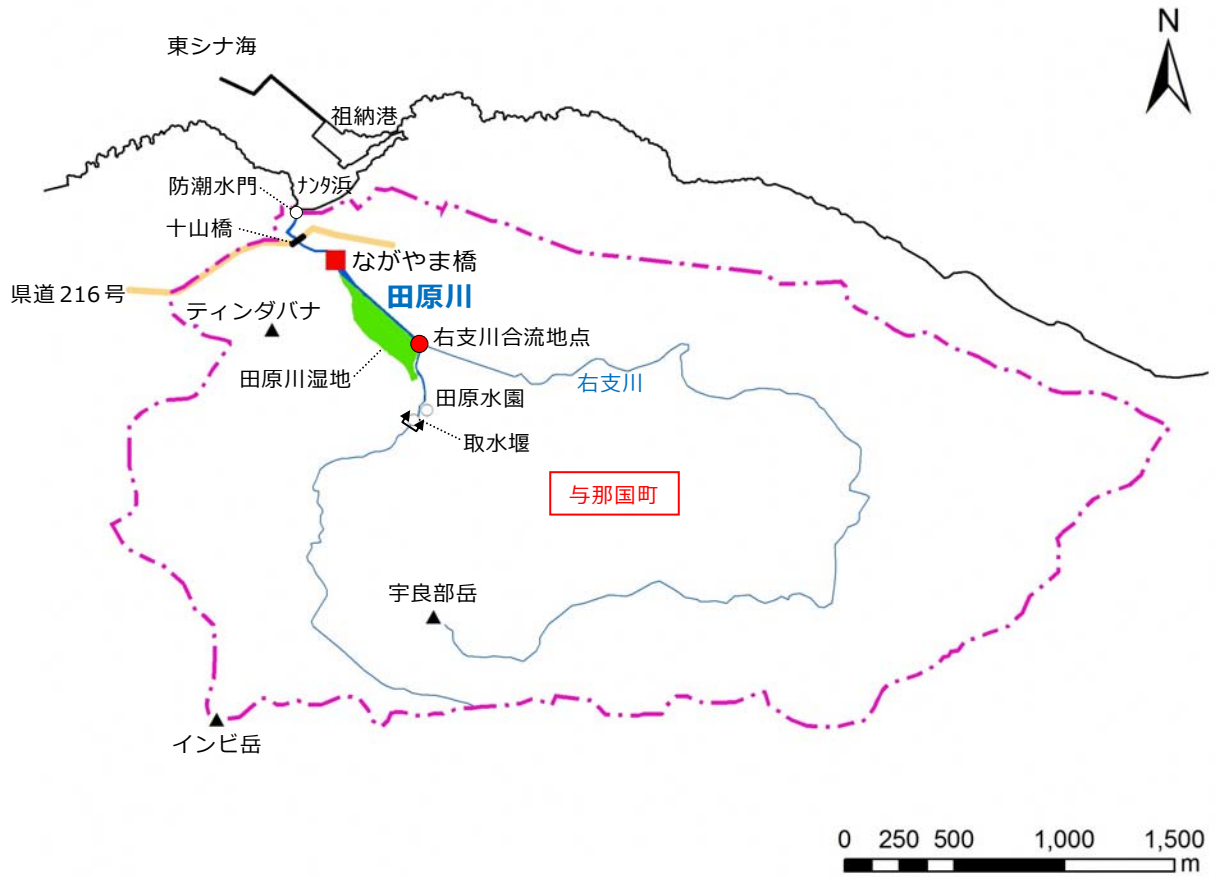
河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位(E. L. m)	川幅(m)	備考
田原川	ながやま橋	0.35	2.24	36	基準地点
	右支川合流地点	0.95	2.66	110	主要地点

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

田原川の流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関しては、流量観測、動植物等の調査を実施し、引き続きデータの蓄積・検討に努める。



(参考図) 田原川水系図



凡 例	
	流域界
	基準地点
	主要地点
	橋 梁
	管理区間終端